西国三十三所

令和７年（２０２５年）３月１２日に和歌山の那智山青岸渡寺をＦＭ大阪のバスツアーで訪れた。西国三十三所という番組のパーソナリティ、谷口キヨコさん、清水寺執事、森清顕さんが１２日早朝から同行し、出発地のＪＲ新大阪駅のレンタカー乗り場から、バスに一緒に乗り、一泊の予定を終えて、翌日の夜戻ってくるまで付き合ってくださった。

午前８時集合、予定通り８時過ぎには出発した。最初は、みなさん、緊張していたが、キヨＰが挨拶をし、当日の運転手の源さん、バスガイドの藤原さんを紹介してくれた。キヨＰは参加してくれたお礼だと言って、参加者全員に、チョコの詰め合わせにカードを書いて渡してくれ、これからの予定を大まかに説明してくれた。森さんが、訪問する青岸渡寺についてお話をしてくださった。

バスは静かに走り、和歌山に入ったところで、ガイドの藤原さんが、辺りにみかん畑が広がっているのを教えてくれたり、紀ノ川、有田川、日高川を通ったことを伝えてくれたりしてくれた。

　１１時１５分、道の駅すさみ、に着いた。手洗い休憩後、１１時３０分に出発し、曇り空の下、太平洋を見た。数日前までは雨が降る予報で、当日も天気は悪く、曇天の下、いつ雨が降り出すか分からない天気だった。実際、青岸渡寺に着く頃は小雨が降り出した。しかし、何とか持ちこたえ、外を歩くときは傘無しで過ごす事ができた。

　話しを戻す。道の駅すさみを出てから、本州最南端の潮岬に着き、食堂で昼食をいただいた。最初からすき焼きつきの豪勢な食事だった。食後は、最南端の記念碑のある場所から海を見てしばらく過ごした。キヨＰはカメラに向かって何かしゃべっていた。食堂の方に戻り、みかん風味のアイスクリームを食べた。冷たく、美味しかった。

　１時１５分過ぎ出発。海が綺麗だ。元来た道を橋杭岩の方まで戻り、そこで一休み。５時１５分だ。ここからクリスタル旅館まで行く。

　クリスタル旅館では、浴衣に着替えてゆったりと部屋で過ごした。大浴場に入るという選択肢もあったが、食事が７時半から始まるのが決まっていたので、せわしなくなると思い、のんびりとした。

　夕食は食べきれないほどのボリュームだった。お造りの山盛りと、アグー豚のしゃぶしゃぶが食べきれないほどでた。食事の後は、温泉に浸かって、これまでのことを思い、疲れを取った。今回の旅は、まだ半分終わっただけだが、多くの人に支えられているのを感じた。

　令和７年３月１３日だ。満６５歳になった。今を大切に一歩ずつ歩んでいきたい。納得いくように生きる。

　６時過ぎまでぐっすりと眠った。７時から朝食を食べた。たくさんのおかずにご飯はお櫃で出された。味噌汁も美味しく、ボリューム満点の朝食だった。

　９時に出発した。途中手洗い休憩を取り、１１時１５分に道の駅、紀ノ川、万葉の郷で休憩し、物産を眺めた。ここでジョージアブラックを買い、目覚ましに飲んだ。

　高野山に着き、恵光院で精進料理をいただいた。これまた、９品もおかずがあり、ボリュームたっぷりだった。角濱製のごま豆腐は絶品だった。その後、本堂を見物し、場所を変えて、護摩祈祷をしてもらった。食事の間に、護摩木に願いを書いていた。私は、家内安全と書いた。祈祷を受けている間に、これは狭い意味だけでなく、大きな意味で世界家族の安全だと思った。

　その後、奥の院に行き、弘法大師の霊廟に参った。辺りは、静謐な雰囲気で、独特の落ち着いた空気感を感じた。

　次は、バスで高野山町を一周し、真言宗総本山、金剛峯寺の前で止めてくれた。自由行動だ。私は、金剛峯寺に行き、お参りをし、寺内を拝観した。

　高野山を出発してからは、くしがきの里で手洗い休憩したが、店は５時までで、締まってしまっていた。キヨＰがとても残念がっていた。

　いよいよ、高速に乗り、新大阪駅まで一気に走った。渋滞などはなく、予定通りに着いた。帰りは、バスの出口で、恵光院で出たごま豆腐一箱を製造元の角濱さんのご好意で、ピエトロドレッシングと博多明太子カルボナーラを営業の前川さんの努力で、キヨＰがお土産として渡してくれ、清水寺夜間拝観招待券を森さんのご好意で自分の希望する枚数だけ、私は２枚いただくことができた。

　一通り振り返ってみたが、中でも印象的だったのは、青岸渡寺に着くときに降り出していた雨が止み、控え所に招かれて、扉を開け放してもらったとき、さっと霧が晴れてゆき、那智の白滝と朱色の三重塔がよく見えるようになり、キヨＰにお願いして、並んで写真を撮ってもらったときのことだった。

　また、恵光院のご住職に護摩祈祷をしてもらったことだった。みなさんが、思い思いに、家内安全、心願成就など書いた護摩木を炊いている１０数分の間は、特別な世界にいるように感じた。